



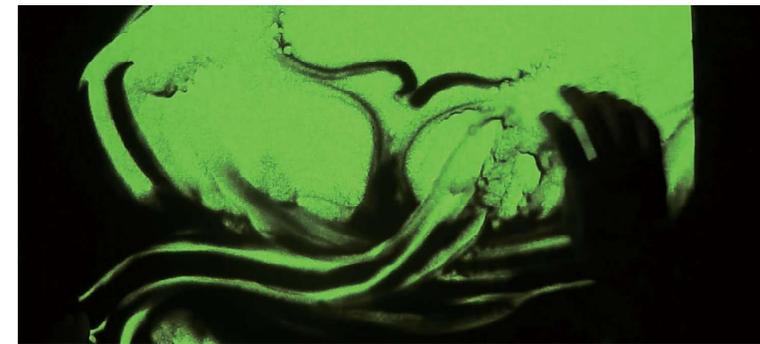
「はるのあしあと」をテーマに、春の美しさや移ろい、儚さをそれぞれの個性で表現した展覧会を開催。相川みつぐによるシラネアオイの生涯を描いた生命力あふれる絵画や、小助川裕康による壮大な山々を表現した軟石の彫刻作品や巨大な絵画をはじめ、河口真哉の自作の詩を核に音・光・匂いを融合させた空間アート、河口真由美のオノマトペを視覚化した色彩豊かで巨大な油彩画が並び、多様な表現が交差する見応えのあるアート空間を生み出した。週末には太田楽と太田彩寧による春の名曲コンサートや、ヴァイオリン体験会も開催された。また、札幌市立大学「きほんのきのかい」による、見えない風を可視化して遊ぶ子ども向け企画「あとあそび」や、こだわりのカフェ出店も実施。多彩なアートや音楽、遊びを通じ、来場者が「自分だけの春」を心に深く刻む温かなイベントとなった。

開催期間：令和7年（2025年）6月7日（土）～6月22日（日） ※月～水曜日休館
会場：まこまる

参加アーティスト：相川みつぐ、小助川裕康、河口真哉、河口真由美、
太田楽、太田彩寧、札幌市立大学学生団体きほんのきのかい、
小林大賀







「いしやまキャンドルナイト 2025」との共同開催。クジラの化石が眠る太古の海、地球の脈動が生み出した軟石、開拓を支えた先人たち、そして今を生きる人々へ。この地に刻まれた歴史と、携わってきた生命たちの想いを未来へ繋ぐことをテーマとした。無数のキャンドルが揺らぐ中、津軽三味線（忍弥・忍絃音）と馬頭琴・喉歌（嵯峨治彦）の魂を震わせる「いのちのひびき」がこだまし、菊澤好紀のダンスと嵯峨孝子のサンドアートが共演。岩壁への投影が太古の記憶を呼び覚ました。日中はサポーターによる「ミナミナク夏祭り」も開催。この感動的な一夜は且見祐介の短編映像作品として記録され、記憶をさらに未来へとつないでいく。

開催期間：令和7年（2025年）8月30日（土） 19:15～20:00

会場：石山緑地ネガティブマウンド（南区石山78番地）

参加アーティスト：菊澤 好紀、忍弥、忍絃音、嵯峨 孝子、嵯峨 治彦、
且見 祐介、小林 大賀

